

回覧

大島中 HP 二次元コード



今日が楽しく

明日が待ち遠しい学校を目指して

【学校教育目標】

思いやりと実践力を持つ

人間性豊かな生徒の育成(自立貢献)

平戸市立大島中学校

令和8年1月30日(金)

第29号

文責 校長 井元教介

2学期に行った学校評価(後期)の結果と考察を載せました。教職員とも検討をし、改善できるところから改善していこうと考えています。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年度 学校評価アンケート(生徒用) 後期実施 結果及び考察

学校教育目標「思いやりと実践力を持つ人間性豊かな生徒の育成」(自立貢献)

◎ 評価の方法：5段階評価

5 = 十分あてはまる 4 = おおむねあてはまる 3 = あまりあてはまらない 2 = ほとんどあてはまらない 1 = わからない

領域	項目	質問内容	5段階評価		
			7月	変化	12月
豊かな心	1	私や仲間たちは、いじめを許さない環境づくりに努めている	4.3	△	4.4
	2	私は、道徳の時間に、積極的に考えたり、話し合ったりしている	4.4	△	4.6
	3	私は、仲間を認め、ほめることを意識して行っている	4.3	▼	4.2
	4	社会体験やボランティア活動等を積極的に行っている	4.0	△	4.3
	5	学校での行事や授業、日々の生活は充実したものになっている	4.3	△	4.6
確かな学力	1	先生は、一人ひとりの状況を見ながら教えるようとしている	4.7	△	4.9
	2	先生は、毎時間、めあてを示し、まとめを行っている	4.8	▼	4.6
	3	先生は、タブレットや電子黒板などのICT機器を使った授業をよく行っている	4.7	△	4.8
	4	授業では、話し合いで意見を述べたり、考えを発表したりすることがある	4.5	—	4.5
	5	授業では、よく分からない時には、すぐに(後で)先生や友だちに質問する	4.1	—	4.1
	6	家庭学習の時間や内容などについて、先生からアドバイスを受けることがある	3.0	△	3.7
家庭との連携	1	先生は、電話連絡や家庭訪問等をよく行っている	3.8	△	4.2
	2	進路や将来の生き方などについて、先生と相談することができる	3.7	△	4.0
	3	家庭では、読書の取組をしている	2.6	△	2.8
	4	家庭では、学習の様子や諸活動について親によく話をする	3.6	△	3.8
教育環境	1	学級や校内は、掲示物が工夫され、物が整理されている	4.6	△	4.7
	2	先生は、授業と休み時間で、時と場合に応じた正しい言葉遣いを行っている	4.8	▼	4.7
	3	学校は、花壇や校地が整備され、校舎の美化が保たれている	4.7	△	5.0
教職員	1	先生は厳しい指導とともに、生徒を認め、ほめることを行っている	4.7	—	4.7
	2	先生は、生徒と積極的に関わり、心のふれあいを大切にしている	4.7	△	4.8
	3	先生は、PTA活動や地域活動に、積極的に参加している	4.1	△	4.5
	4	生徒にとって通いがいい学校である	4.3	△	4.5

【生徒結果の考察】

●成果

・今年度の前期評価より3項目が0.1~0.2ポイント下がったのみで、他の項目は全て前期を上回っている状況である。これは生徒自身と生徒を取り巻く環境が好転しているものと考えている。「家庭学習の時間や

内容などについて、先生からアドバイスを受けることがある」の項目では、前期より0.7ポイント上昇し、教職員で共通理解を図り、指導に当たった成果であると考えているが、さらに生徒のやる気を引き出すような言葉かけや指導を今後も継続・改善していきたいと考えている。

★課題

・「確かな学力」の項目において、「授業ではよくわからないときは、すぐに（後で）先生や友だちに質問する」が「4.1」と前期と変化がなかった。対策としては、授業の中で友だち同士で質問しあう場面を設定したり、教師への質問タイムを設けたりすることで、今後とも質問しやすい雰囲気を作り出したいと考えている。

・家庭との連携の項目で「家庭では、読書の取り組みをしている」が2.8ポイント、「家庭では、学習の様子や諸活動について親によく話をする」が3.8ポイントと全体の中で低い値を示している。今後は「家庭での10分間読書タイム」の習慣づけについて啓発を図っていききたいと考えている。また、今後は家庭での話題の提供に力を入れる目的で、保護者の考えや思いを聞く場面を想定した課題等を各教科等で検討していきたいと考えている。

令和7年度 学校評価アンケート（保護者用） 後期実施 結果及び考察

学校教育目標「思いやりと実践力を持つ人間性豊かな生徒の育成」（自立貢献）

◎ 評価の方法：5段階評価

5＝十分あてはまる 4＝おおむねあてはまる 3＝あまりあてはまらない 2＝ほとんどあてはまらない 1＝わからない

領域	項目	質問内容	5段階評価		
			7月	変化	12月
豊かな心	1	先生は、いじめを許さない環境づくりに努めている	4.7	▼	4.1
	2	お子様は、道徳の時間に内容について、家で話をしたことがある	3.6	▼	2.9
	3	お子様は、家でよく友だちのことを話す	4.5	▼	4.0
	4	学校は、社会体験やボランティア活動等の体験学習を積極的に取り入れている	4.8	—	4.8
	5	お子様は、学校での行事や授業、日々の生活に満足している	4.4	▼	3.9
確かな学力	1	先生は、お子様の状況をきちんと考えて教えようと努力している	4.7	▼	4.5
	2	お子様は、フォーサイトを活用し、授業の準備や学習予定を立てている	4.5	▼	4.4
	3	家では、パソコンやタブレット、スマホ等を学習に使っている	4.2	▼	4.1
	4	授業で意見を述べたり、考えを発表したりしたことを家でも聞いたことがある	4.2	▼	4.0
	5	お子様は分からないことを調べたり、先生に質問したりしている	3.6	△	4.1
	6	お子様は、家庭学習に自分から取り組むことができている	4.5	▼	4.3
家庭との連携	1	先生は、電話連絡や家庭訪問等をよく行っている	4.1	△	4.2
	2	進路や将来の生き方などについて、先生と相談することができる	3.9	▼	3.7
	3	家庭では、読書やメディアコントロールの取組を積極的にしている	3.6	▼	3.5
	4	お子様は、学校の配付物を確実に渡している	4.1	▼	3.7
教育環境	1	学級や校内は、掲示物が工夫され、物が整理されている	4.3	△	4.4
	2	先生は懇談や電話等で、時と場合に応じた正しい言葉遣いを行っている	4.7	△	4.8
	3	学校は、花壇や校地が整備され、校舎の美化が保たれている	4.9	▼	4.7
	1	先生は、分かるように教えよう、問題をきちんと指導しようとする熱意がある	4.8	—	4.8
	2	先生は、生徒と積極的に関わり、心のふれあいを大切にしている	4.8	▼	4.7

教 職 員	3	先生は、PTA活動や地域活動に、積極的に参加している	4.5	△	4.6
	4	保護者にとって通わせがいのある学校である	4.3	△	4.4

【保護者結果の考察】

●成果

・肯定的な評価が多く、学校としての指導の方向性、保護者としての協力の方向性については前回同様に定まっている状況だと感じられる。

・「豊かな心」「教職員」の項目における「学校は、社会体験やボランティア活動等の体験学習を積極的に取り入れている」「先生は、分かるように教えよう、問題をきちんと指導しようとする熱意がある」は「4.8」と前回同様に高く、学校の取組をよく理解していただいていることがわかった。

★課題

・「豊かな心」の項目における「お子様は、道徳の時間の内容について、家で話をしたことがある」が「2.9」と前回よりさらに低く、今後は家庭での話題の提供に力を入れる目的として、保護者の考えや思いを聞く場面を想定した課題等を検討していきたいと考えている。

・「豊かな心」の項目における「お子様は学校での行事や授業、日々の生活に満足している」が「3.9」と前回よりさらに低く、生徒会を中心に行事等の内容について生徒の意見を聞くことで分析を行い、改善策を検討していきたいと考えている。

・「家庭との連携」の項目における「お子様は進路や将来の生き方などについて、先生と相談をすることができる」が「3.7」と前回は下回った。朝の活動で行っている「だっぴ（一つのお題についてみんなで意見を出し合う活動）」のお題を進路や将来に関するものにする頻度を上げ、生徒だけでなく教師の考えも聞く場面を設定することで相談しやすい雰囲気作りに努めたいと考えている。

・「家庭との連携」の項目における「家庭では、読書やメディアコントロールの取組を積極的にしている」が「3.5」と前回は下回り、来年度は「家庭での10分間読書タイム」の啓発と取組を行っていききたいと考えている。

・「家庭との連携」の項目における「お子様は、学校の配付物等を確実に渡している」が「3.7」と前回は下回り、今後は学校・家庭間の配付物の受け渡し方について学校全体での取組を検討していきたい。